



今月の題字
ささき みお ちゃん
(山田南小1年)

町のわたし

湯めぐりスタンプラリー表彰式 賞品を受け取りうれし顔

「やまだ湯めぐりスタンプラリー」の表彰式が11月17日、山田町商工会館で行われました。同スタンプラリーは、山田の魅力発信事業の一環として7月から9月まで実施され、町内の鉱泉、温泉、銭湯の6箇所のうち鉱泉・温泉2カ所以上、銭湯1カ所以上で入浴し、スタンプを押印してもらうと懸賞参加資格が得られるもの。6カ所すべてを制覇した方には、「完湯賞」としてオリジナルタオルがプレゼントされました。表彰式には、応募総数48人から抽選で1等賞に選ばれた3人が出席。同事業実行委員会の阿部幸栄会長から賞品が手渡され、うれしそうに受け取っていました。



区画整理事業ワークショップ 意見を出し合い住みよい町に

11月16日、北浜防災センターでワークショップが開催されました。現在行われている柳沢北浜地区土地区画整理事業を行政、専門家、住民が平等な立場で意見を出し合い進めていくため、町都市計画課が主催したものです。今回は柳沢、北浜地区の町民、設計業者、町職員ら60人が参加。司会者の質問に旗を掲げて答える旗揚げアンケートを行った後、地区内に7カ所作られる予定の公園について話し合いました。「安らげる公園に」「ペットも入れる公園を」「こんな遊具が欲しい」などさまざまな意見が飛び交い、参加者は住みよい町づくりに熱心に議論を重ねていました。



「ふるさとCM大賞」審査会 山田の魅力を存分にPR

11月15日、岩手朝日テレビ主催の「ふるさとCM大賞」審査会が盛岡市で開催されました。同CM大賞は、県内の市町村が地元をPRする30秒のテレビCMを作製し、ふるさと自慢を競い合うもので、今年で2回目。県内43市町村が参加しました。本町からは、山田の魅力発信事業実行委員会が作製した作品「いつまでも守りたい海があります」が出品され、審査会には漁師役の阿部豊さん(36)や若者役の山田高校ボート部の生徒ら総勢23人が出席し、山田の魅力をPR。審査の結果、本町は入賞できませんでしたが、参加賞として年間20回、本町のCMが放送されます。なお、審査会の模様は12月13日午後4時から同局で放送されます。



国道沿いで「桜並木植樹会」 10年後の開花に願いを込めて

11月27日、豊間根地区から宮古市津軽石までの国道45号沿いで「桜並木植樹会」が行われ、80本のサクラの苗木が植えられました。これは三陸国道事務所が歩道の整備にあわせて行ったもので、作業には三陸国道事務所長や宮古地方振興局長、沿線の住民や近隣の学校の児童生徒ら200人が参加。美しいサクラ並木になるよう願いを込めながら苗を植えていました。作業終了後には、温かい鮭汁が振る舞われ、参加者はおいしそうに口に運んでいました。



山高で郷土料理実習 地元食材生かした調理法学ぶ

11月22日、山田高校家庭クラブの郷土料理実習が同校調理室で行われ、クラブ員8人が参加しました。郷土の料理にもっと理解を深めようとしたもので、町食生活改善推進員団体連絡協議会の鈴木協子会長らの指導で、サケのすり身汁やゴマごはんなど5品に挑戦しました。魚のおろし方や味付けに悪戦苦闘する生徒たち。それでも地元食材を生かした調理法を身に付けようと一生懸命に取り組んでいました。同クラブの皆さんは、今回学んだ調理法を家庭科の調理実習でほかの生徒に指導することになっています。

空手道協会 創立40周年記念行事 伝統胸にさらなる発展誓う

11月23日、山田空手道協会(伊藤順一郎会長・会員86人)の創立40周年記念式典が町武徳殿で行われ、国際松濤館館長や同協会の会員など100人が出席しました。同協会は昭和39年に創立。以来、指導を受けている山田高校が県高総体での優勝や国体出場、平成9年には町出身の会員が同流派の世界チャンピオンになるなど、数々の好成績を残し、本県の空手界をリードしてきました。式典の後「ホテル陸中海岸」で祝賀会が行われ、出席者はこれまでの思い出を語り合うなど、この40年間の輝かしい歴史を振り返り、同協会のさらなる発展を誓い合っていました。

